

私には第 1 位ではなく、第 2 位が合う

東京外国語大学大学院世界言語社会専攻
エンフアムガラン オノン

私の趣味は大学の掲示板を見ることです。それは学部生時代からの習慣になっていました。「看板に頼る」習慣がいつか実を結ぶと信じていたからです。学部 2 年生の時、モンゴル国立大学日本語学科の廊下にある看板を頻繁にチェックしていたところ、日本モンゴル開発センターで日本語スピーチコンテストが開かれると書いてありました。是非とも参加したいと思い、準備に入り、最終的にはステージでスピーチすることになった 6 人のうちの 1 人になりました。結果は第 2 位でした。第 1 位になれば、1 週間日本へ交換生として招待されることになっていました。第 2 位は記念品をいただきました。少し残念に思いましたが、1 ヶ月後に日本学科の先生から連絡があり、日本語能力試験の結果と成績などで評価し、教員たちの話し合いの結果、「奨学金付きで日本への 1 年間留学に推薦する」ので応募してみないかという素敵なお誘いをいただきました。そして国際教養大学に 1 年間交換留学生として留学しました。心の中では第 2 位になって良かったと思いました。それから長い年月が経ち、2017 年から東京外国語大学の研究生となり、その後修士課程、博士課程に進みました。

1 年半前の夏のある日、東京外国語大学の掲示板をチェックしたい気分になり、向かった結果、渥美国際交流財団の奨学生募集のポスターを見つけました。全部読み終わって「必ず合格する」と決意しました。書類の準備、スピーチの練習、きれいな日本語のスピーチを何時間も聞く練習など、よりよい自分づくりに時間をかけました。自分自身の準備は少し整えられたと思った後、偶々日本の有名な武士である徳川家康が敬仰したという箱根神社の歴史を知り、次は自分のメンタル、精神面を強くするため箱根神社へお参りに参りました。とても美しい自然に囲まれている夢のような場所でした。日本の神様は外国人の願いを聞いてくださるのかなと少し思いましたが、日本語でお願いをすると問題ないだろうと思いました。最終的に 12 月に合格通知を目にして、とてもうれしく、「やったー！」と言いたかったのですが、息子が寝ていたので、心の中で「よかった、やったー！」と叫びました。4 月になり奨学生リストを拝見して、自分の名前が名簿の 2 番目に記載されていて私には「2」という数字が合うんだなと実感するようになりました。

言語学では複数とは「2つ」以上を指すと言われています。私の研究も複数の研究であり、私の名前である「オノン」、(Onon)も複数である数字の名で、仏教の 36 桁の数字を Onon と言います。

息子との 6 年半に渡る日本での留学期間は私の人生で黄金時代だと思っています。私は勉強と研究に励み、息子も色々なことにチャレンジし、様々なことを学んだ 6 年半でした。息子は小学校で「漢字博士賞」を頂き、漢字を愛する、日本国を尊敬する少年になりました。

今後の課題としてはモンゴルの教育機関で活躍するとともに、日々の研究を元に学会発表などを通して海外の研究者と交流を深めていく予定です。モンゴルにおける言語学研究、日本語教育、高等教育学と

いう3つの大きなカテゴリーを中心に活躍し、また深く続けて学んでいきたいと思っております。日本で得た知識、研究仲間、ネットワークを大切に、次の20年、30年を有意義な時間にし、次世代の若手教員、研究員の育成にもいつか携わる側になると信じ、日々努力して参ります。渥美国際交流財団のメンバーになれたことも心から嬉しく思っており、優秀な研究者たちとネットワークを作る機会を与えてくださったことは感謝してもしきれないです。この絆を大切に思い、今後も全力で進んで参りたいと存じます。